

第12回群馬県世界遺産専門委員会 議事概要

- ・日 時：令和5年2月6日（月） 10：00～11：50
- ・場 所：群馬県庁 294会議室
- ・出席者：【委員等】委員7名
【助言者】文化庁主任文化財調査官1名、市町の保存整備や活用に係る委員会委員長4名（富岡市・伊勢崎市・藤岡市・下仁田町）
【事務局】群馬県10名、富岡市9名、伊勢崎市2名、藤岡市2名、下仁田町2名

1 開会

2 あいさつ 群馬県地域創生副部長、荻谷委員長

3 協議事項

（1）遺産影響評価マニュアルの進捗状況

- ・前回の専門委員会の意見に対する対応方針について協議

【委員等からの主な質疑・意見】

- ・景観を守るためには、複数の法令を重ね合わせ、複合的に抑制していく手法が妥当である。例えば、景観法、環境関係の法規制と地球温暖化対策推進法の折り合いの付け方の検討が必要である。
- ・全国的に問題になっている風力発電についても配慮する必要がある。
- ・関係各課、各行政機関と色々な議論をしながら総合的に施策を作っていく必要がある。
- ・日本イコモスも再生エネルギー事業が文化遺産に与える影響について、研究・検討する小委員会を設置しようと考えている。

（2）世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の活用

- ・「富岡製糸場を中核とした文化観光拠点計画」、「世界遺産富岡製糸場を核とした新たなレガシー形成事業」及び「令和4年度来訪者 WEB アンケートの結果」について報告し、それらを踏まえた世界遺産の活用について協議

【委員等からの主な質疑・意見】

○富岡製糸場を中核とした文化観光拠点計画

- ・継承的な景観計画をバッファゾーンに取り入れ、文化的景観として残していくことが必要である。
- ・来訪者は50代が多いため、体験型事業にしても観光事業にしても、50代層から若年層への拡大が一つの目標になる。
- ・インバウンドについては、今のアジア圏中心から、観光消費額が大きく富岡製糸場とも縁のあるフランスなど欧米諸国へ広げるとよい。
- ・HPは作ることは簡単だが、そこに人を呼ぶ方が大変であり、HPの宣伝が必要である。
- ・海外では、1日コース、半日コース等いろいろなガイドツアーがある。興味を持

った人により深い知識や体験をしてもらうガイドツアーをしっかりとやる必要がある。

- ・保存継承する上で、危機的なところはきちんと情報を出したほうが、他の人からの共感も得られる。
- ・継続的な利用のために、学校や教育機関との連携が重要である。
- ・近隣には、貫前神社や妙義神社など貴重な資産がたくさんある。絹以外の文化財もからめた活用も検討してほしい。

○世界遺産富岡製糸場を核とした新たなレガシー形成事業

- ・グランドデザインとしての大きな目標や方向性はよい。アクションプランに落とし込むときに、分かりやすいものをキーワードにした方がよい。
- ・富岡は養蚕を残すことに非常に力を入れているので、養蚕農家を整備し、体験養蚕も考えられる。
- ・地域で活用できる資産を調査把握し、ストーリーを付けて活用することが大事であり、単に遺産を見るだけでなく、地域を楽しむことにつなげる。
- ・観る人が、実物が動いていた100年間の歴史の中にタイムスリップして行くような展示で産業遺産を理解できればよい。
- ・ターゲットとして、マスのお客様、少しコアなお客様、そしてインバウンドのお客様がある。それぞれの客層に応じたプランを考えるとよい。
- ・文化遺産は動きがないので、1回来るともう十分となってしまうところが多い。そこを埋めるのが体験メニューで、変化を意識するとよい。修復している現場を見せることも変化になる。

4 その他

5 閉会

(以上)